

出前授業・模擬選挙	模擬議会・議員との交流	大学・若者グループ等との交流	【参考】 学校・民間団体が主体の取組
地方公共団体主体	他の機関(税務署)と連携	若者議会・こども議会	座談会等
小学生等	中学生	高校生	大学生・短大生・高専生
		特別支援学校生	若者層(10~20代)

⑱天塩町（北海道）（人口2,814人）※令和5年1月1日現在

高大連携による政策提言ワークショップ

ミレニアル世代の力で地域活性化・課題解決・政策提言～実装を目指す

■取組の概要

- 町唯一の天塩高校が筑波大学との高大連携により、大学生とグループワークやワークショップを行い、町の地域活性化に向けた政策をとりまとめ、提言・発表を実施することにより、町の問題を自分事として捉え、考え、行動していく主権者の育成につなげている。



実施概要

実施年度	平成29年度から毎年実施
対象者	北海道天塩高等学校の生徒（主に2年生）※一時期は中学生も対象とした
参加者数	20名（令和4年度）※令和3年度から総合的な探究の授業枠とし学年全員が参加
事業規模（予算）	80万円（令和4年度）※使途のほとんどは大学生来訪のための旅費・付帯費用

■実施の経緯

<取組を開始するに至った経緯>

- 全国的にもめずらしい「ライドシェア実証実験」（地方創生外部人材派遣制度で派遣された副町長が中心となって平成28年度に実施）の視察で町を訪れた筑波大学の社会工学の教授から、高大連携の打診があった。町としても少子化の影響を懸念し、地域の担い手となる人材育成の必要性を感じていたことから実施に至った。

■実施の体制

<庁内の実施体制>

- 主務担当1名（予算措置、外部連携者との連絡調整/開催実施業務・兼任）
- 主務サポート2名（地域おこし協力隊：コンテンツ制作支援等）

<外部との連携>

- 筑波大学（社会工学・都市計測実験室）大澤義明教授（アドバイザー統括）
当研究室所属学生（TA（ティーチングアシスタント）及びワークショップフレームの策定及び実装）

■取組の効果・成果

- 地域の高校生にとって日常的に接する機会のない大学生と交流ができ、見識を広げられている。
- 地域の外部関係者との交流機会になり、地域に関心を持つようになっただけでなく、自らが地域や社会についてどうすべきか、どうしたいかを考えるきっかけになっている。
- 大学生にとっても、過疎地域の現況や課題を肌感覚で知る機会となり、貴重な経験になっている。



<これから取組を始める団体へのメッセージ>

限られた人的リソースで新しいことに取り組むには、外部の知見とつながり、同じ目線で町を見てくれるようなつながりを持つことが重要です。前向きに新しいことにチャレンジする姿勢を見せていれば、応援してくれる人が必ず出てきます！

★より詳しい情報はこちらへ

【天塩高校生が最終審査会(内閣府・東京)にて発表しました!]
<https://www.teshiotown.hokkaido.jp/?p=22485>



■取組のステップとポイント

【実施6か月前】実施概要の協議・調整開始

- ・大学・高校と実施時期、スケジュール、グループ分け、テーマ設定等の実施概要を協議・調整。

【実施5か月前】実施スケジュールの具体化

- ・日程、授業枠スケジュール及び内容の決定。

【実施4か月前～直前】オンライン事前授業 (月に1回、計4回実施)

〔実施内容〕

- 1 大学生によるオンライン事前授業
高校生に対して学習用タブレット（町が貸与）を用いて講義。
①RESASの使い方、ワークショップの進め方等
②テーマの深掘り、KJ法による町の課題や魅力の整理
③グループのテーマごとにヒアリング
- 2 グループワーク
高校生30名を7班に分け、それぞれテーマを設定。
テーマごとに外部ヒアリングを実施。

【ポイント】

- ・RESAS地域情報分析システムを活用し、定量的なデータに基づいたエビデンスを有する発表になるように工夫。
- ・グループワークのテーマは、1年生時の総合的な探究の時間で町の自然環境に関するフィールドワークをしており、そこで学んだ事から興味のあるテーマ（例：ふるさと納税、特産品開発等）を設定し、授業としての連続性を担保。



大学生による遠隔授業の様子

【実施1～2か月前】プログラム詳細設定・準備

- ・大学生来訪ワークショップの行程、発表会のプログラムの詳細設定、会場手配準備、必要物品の把握・調達。
- ・広報ツールの作成・配布、メディアリリース等。

【ポイント】

- ・取組が新聞に取り上げられることは認知度向上の上で重要。取材に来てもらうように調整し、記事の内容になる資料を準備しておく。

<大学生来訪ワークショップ・発表会の流れ>

- 1日目 大学生天塩町入り、地域調査・高校で特別授業等
- 2日目 終日高校にて対面ワークショップ
- 3日目 午前 ゲストによる特別授業、発表内容の作成
午後 発表会（シンポジウム、一般開放）
※2年生が発表、1年生は見学・質問
- 4日目 大学生による地域探究、帰京



ワークショップの様子



発表会の様子

【ポイント】

- ・発表会には、できるだけ多くの町民や町の関係者に集まってもらうよう、来賓の出席を調整。興味を持ってもらえるよう、著名人の特別講演等もプログラムに入れた。

【ポイント】

- ・発表して終わりではなく、実現に向けてさらに一歩進められるか。コンテスト等への参加はその一助に。

<アンケート及びコンテンツ等への参加>

- ・内閣府「地方創生☆政策アイデアコンテスト」に応募。
- ・筑波大学高大連携シンポジウムに参加。

① 事前準備

② 取組実施

③ 実施後